

人が輝き まちがときめく
ふれあひ 交流都市

広報

のぼりべつ

2001/2/1
No.604

2001年1月1日(開正午)、「のぼりべつ千支みこし会」による「千支みこし」が、登別中央ショッピングセンター・アーニス横のらいば公園からモンマートかわむらまでを練り歩き、21世紀の幕開けを祝いました。

この日、登場したみこしは「辰」「巳」の3基。担ぎ手が約50人とどまったため、1基ずつのリレー形式による出陣となりましたが、担ぎ手たちの掛け声も勇ましく、沿道に詰め掛けた観客たちから温かい声援が送られていました。

特集①

私たちの『ごみ白書』

特集②

まちの幼稚園

私たちの

ごみ白書

ごみの新しい分別方法による収集が始まって、早くも一年がたちました。『広報のほりべつ』では、これまで、ごみの分別やリサイクルなどをテーマに特集を組み、市民のみなさんとともにごみの減量化や資源の有効利用について考えてきました。

「あら、またごみの特集？ 私はちゃんと分別してるわよ。ひまなときにでも読むわ」。

そういわずにお付き合いください。

今回の特集では、市民のみなさんが取り組んできたごみの分別・リサイクルの成果やクリーンセンターの利用状況などをデータで振り返るほか、知って得する制度や豆知識などを紹介します。

私たち市民一人ひとりの、そして町内会や各種団体、クリーンリーダー、行政などが共に取り組んできた成果がここにあります。

なぜ、ごみの減量とリサイクルが大切なのか？

今、なぜ、私たちは、真剣にごみの減量とリサイクルに取り組まなければならないのでしょうか。少し難しいお話になりますが、おさらいをしてみましょう。

私たち人間やさまざまな動植物などが生きていくこの地球は、今、深刻な問題を抱えています。それは、工場や自動車などの排煙による大気汚染や酸性雨、フロンガスによるオゾン層の破壊、森林資源の浪費による熱帯雨林の減少や砂漠化、地球の温暖化、限りある資源の枯渇など、複雑に絡み合った地球規模の環境問題。これらの環境問題が発生した背景には、大量生産・大量消費・大量廃棄・利便性の追及といった私たちの日常生活や経済活動があり、改善するためには、一人ひとりが

これまでの価値観や生活スタイルを見つめ直し、環境を守り、より良い状態で維持していけるような社会の構築に努める必要があります。環境に優しい社会をつくり上げるために、私たちが取り組むべき身近な問題の一つが「ごみ問題」。私たちの生活に密着しているこの問題は、市民、事業者、行政が一体となって取り組んでいかなければならない問題で、資源を最大限に有効利用する「資源循環型社会」を確立し、環境への負荷を少なくしていくことが大切です。

わたしたちのまち「のほりべつ」でも、各家庭から排出されるごみの量が増加する傾向にあり、その質も多様化しています。

このため、市は、平成9年度から3カ年で約90億円を投じ、従来の施設に代わる新しいごみ処理施設（クリンケルセンターと廃棄物管理型最終処分場）を建設し、一体的な整備を図りました。

このクリンケルセンターは、ごみを焼却処理する「焼却処理施設」と、ごみの減量・減容化、資源化、再生などを進める「リサイクルプラザ」で構成され、これまでのように単にごみを燃やして埋め立て処分する方法から、ごみの減量化やリサイクルを推進し、「資源循環型社会」の実現に大きく貢献できる施設です。この施設の優れた機能を十分に発揮するためには、私たち一人ひとりがごみを正しく分別することが必要なのです。

ごみの新しい分別収集と有料化その後

家庭系ごみの有料化を実施した平成12年4月から12月までに収集したごみの量は、平成11年の同時期と比べると約30割、平成10年の同時期と比べると約22割減りました。（グラフ①）

新分別がスタートしたころは、分別

グラフ① ごみの量の推移（各年4月から12月末まで）



・排出ルールの守られていないごみが数多くごみステーションに出され、「収集できません」と書かれた警告シールを張られました。

その後、多くの方が率先してごみの正しい分別・排出ルールの順守に取り組みんでくれたことや、各町内会やクリーンリーダー、市の清掃指導員による指導もあって、警告シールを張られるごみは減少しました。

しかし、いまだにごみの分別・排出ルールを守らず、地域の方に迷惑をかけている人がいます。分別・排出ルールがまったく守られていないごみのごみステーションに出された場合は、清掃指導員が排出者を調べ、直接指導を

知って得する豆知識

ご存じですか？ このマーク

マーク	名称	マークの目的など
	エコマーク	環境にやさしいライフスタイルに誘導
	アルミ缶リサイクルマーク	スチール缶とアルミ缶の識別を容易にし、リサイクルの促進
	スチール缶リサイクルマーク	スチール缶とアルミ缶の識別を容易にし、リサイクルの促進
	ペットボトルリサイクルマーク	分別回収を容易にし、リサイクルの促進
	リサイクルシンボルマーク	リサイクルを広く展開していくためのシンボルマーク
	グリーンマーク	古紙使用製品の利用拡大
	再生紙使用マーク	古紙配合率100%再生紙を使用
	空き缶散乱防止マーク	空き缶の散乱防止とリサイクルの推進
	非木材紙利用促進マーク	木材の代替資源としての非木材紙の利用促進
	紙製容器包装マーク	分別回収を容易にし、リサイクルを促進 (平成13年4月から表示義務)
	プラスチック製容器包装マーク	分別回収を容易にし、リサイクルを促進 (平成13年4月から表示義務)

資源ごみの分別・排出ルールを守ってください

缶やびん、ペットボトルなどを「ごみ」として排出するときは「資源ごみ」として排出します。ごみとは呼んでいますが、缶やびん、ペットボトルなどはリサイクルして再利用できる大切な資源です。正しく分別されていなかったり、容器の中に物が残っていると、リサイクルできない場合があります。

行うこともあります。

「私一人のごみぐらい」と考えず、まさに暮らすすべての人がごみの正しい分別・排出ルールを守り、環境に優しいまち、清潔な地域をつくっていききたいものです。

資源ごみは、次の①から③のルールを守り、排出してください。

- ①缶とびんは、キャップなどを外し、中をすすいで透明または半透明の袋に入れ、週1回の資源ごみの日に出示しましょう。
- ②ペットボトルは、キャップなどを外し、中をすすいでペットボトルだけを透明または半透明の袋に入れ、週1回の資源ごみの日に出示しましょう。

※プラスチックのキャップは「燃やせるごみ」、金属のキャップや金属とプラスチックなどの混合キャップは「燃やせないごみ」として排出してください。

③紙パックは、中をすすぎ、開いて乾かし、ひもなどで束ねて、公共施設や店舗などの回収ボックスに出しましょう。



▲「ごみのクリンクル帳」で分別・排出方法を確認

ごみの分別・排出方法は、環境資源課（クリンクルセンター内）や市民課、各支所で配布している「ゴミのクリンクル帳」で確認したり、分別方法が不明なものについては、環境資源課（クリンクルセンター内 ☎2958）までお気軽にお問い合わせください。

また、登別市の公式ホームページ（<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/>）にもごみの分別・排出方法を掲載

グラフ② 資源ごみのリサイクル状況
(平成12年4月から12月末まで)



表① 堆肥生産量と利用状況 (平成12年4月から12月末まで)

生ごみ搬入量	堆肥生産量	堆肥配布量	
		配布・利用先	配布・利用量
約293t	約70t	市民	約32t
		町内会	約9t
		団体など	約2t
		学校など	約5t
		公共施設など	約3t
		合計	約51t

表② リサイクル品無料抽選会での利用状況 (平成12年度)

抽選日	抽選会参加人数	再生品展示数	再生品引き取り数
7月16日(日)	約500人	176点	147点
10月1日(日)	約200人	152点	100点
合計	約700人	328点	247点



◀ クリンクルセンター内の再生品展示室。3月に展示品の無料抽選会を予定。

① ①ごみの資源化
各家庭や事業所から資源ごみとして排出された缶やびん、ペットボトルは、リサイクルプラザで選別・圧縮などを行い、有効資源としてリサイクルしています。平成12年1月から12月までに、資源ごみとして回収された缶やびん、ペットボトルなど約852tが資源としてリサイクルされました。(グラフ②)
生ごみを堆肥としてリサイクルする高速堆肥化処理施設では、登別温泉街

のホテルや旅館、学校給食センターなどから出された生ごみを原料に、堆肥の生産に取り組んできました。
平成12年4月から12月までに、約220tの生ごみを約70tの堆肥としてリサイクルし、市民のみなさんをはじめ、各町内会や各種団体、小・中学校などへ無料で配布しました。(表①)
このほかにも、不燃・粗大ごみの破砕後に選別回収された鉄類や、公共施設などの回収ボックスから回収された紙パックも、資源としてリサイクルしています。
②粗大ごみなどの再利用
リサイクルプラザに持ち込まれた粗大ごみなどの中から、まだ使える家具

などを修理し、クリンクルセンター内の再生品展示室に展示しています。
再生された家具などは、クリンクルセンターで自由に見学できるほか、平成12年度は7月16日と10月1日に公開抽選を行い、25点の再生品を希望者へ無料で提供しました。(表②)
公開抽選は3月にも行う予定で、詳しい日時などは今後の「広報のぼりべつ」でお知らせします。
●危険なごみや不法投棄ルールを守ろう
危険なごみ
クリンクルセンターでは、平成12年4月からこれまでに、3回の火災事故

が発生しました。火災が発生したのは、燃やせないごみや粗大ごみを細かく砕くときに使う破砕機で、カセットボンベやスプレー缶などがその原因です。
幸い、大事には至りませんでした。カセットボンベやスプレー缶は、本来、資源ごみとして分別し、缶に穴を開け中のガスを必ず抜いてから排出しなければならぬものです。清掃作業員が安全に業務に従事し、また、施設をできるだけ長く使っていくためにも、分別・排出ルールを守ってください。
また、他市町村ではごみ収集車の中で、ごみとして排出されたたばこの不始末などによる火災事故が発生しています。たばこは、完全に火が消えたことを確認してから、ごみとして排出してください。
●不法投棄
ごみの排出ルールを守らず、ごみステーション以外の場所にごみを捨てる「不法投棄」
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、不法投棄をした人に対して、5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金、法人に対しては、最高1億円の罰金(産業廃棄物の場合)となっています。不法投棄は犯罪です。絶対にしないでください。
もし、不法投棄をしている人を見かけたら環境資源課までご連絡ください。
クリンクルセンターをぜひ活用してください
ごみ環境問題について取り組む場と

グラフ③ 資源回収見込み量 (平成12年4月から12月末まで)



表③ クリクルセンター見学者・見学団体数 (平成12年4月から12月末まで)



区分	見学団体数	見学者数
個人	登別市民の方	10,788人
	他市町村の方	232人
	合計	11,020人
団体	登別市内の団体	1,959人
	他市町村の団体	2,075人
	合計	4,034人
総合計	163団体	15,054人

表④ クリクルセンターでのダイオキシン類測定結果 (平成12年度)

測定日	測定場所	排出規制値	測定値
7月19日(水)	A炉煙突	国… 1.1×10^{-6} g/m ³ 市… 0.1×10^{-6} g/m ³	0.033×10^{-6} g/m ³
10月19日(水)	B炉煙突		0.028×10^{-6} g/m ³



◀クリクルセンターは、国が定めるダイオキシン類の排出規制値 1.1×10^{-6} g/m³(1×10^{-6} は 1×10^6 の10億分の1)を下回る 0.1×10^{-6} g/m³を自主排出規制値として運転しています。

して、市民のみなさんや各種団体の自主的活動の場・交流の場として、市民ギャラリーと研修室を無料で貸し出ししています。
申し込み方法などについては環境資源課にお問い合わせください。
このほかにも、再生品展示室やクリクルセンターでのごみ処理の過程などを見学できる「市民見学コース」もありますので、お気軽にお越しください。

▼申し込み・問い合わせ 環境資源課 (クリクルセンター内 ☎2958)

知って得する さなざまな制度

◎資源回収団体奨励金

日常生活でごみとして排出されるものの中には、再生利用できる資源がたくさん含まれています。
市は、これらの資源の再生利用を推進し、ごみの減量や地域の環境保全と美化推進を目的に、資源回収事業を行う非営利団体へ、資源物の重量によって奨励金を支給する制度を平成12年4月から施行しています。ぜひ、ご利用ください。平成12年度の登録団体は74団体で、約8割が資源として回収される見込みです。(グラフ③)

- ▼回収資源 紙類や金属類、びん類、布類、箱類など
- ▼対象 町内会や子ども会など、営利を目的としない団体(事前登録が必要)
- ▼奨励金 重さ1kgあたり2円(上限額)
- ▼申し込み 環境資源課(クリクルセンター内 ☎2958)

◎生ごみ堆肥化容器(コンポスト) 購入費の一部補助

- ▼対象 市内に居住し、家庭から出る生ごみを自家処理しようとする方で、容器を適正に維持・管理できる方
- ▼対象容器 容量が100L以上のもの
- ▼補助額 容器1個当たり2千円で、

◎不用品ダイヤル市

1世帯2個まで
※購入前に申請手続きが必要です。
▼問い合わせ 登別市衛生団体連合会 事務局 (環境資源課内 ☎2958)

不用品となった物や欲しい物を電話で登録していただきます。
登録期間は6カ月で、更新することができます。登録品は、広報のほりべつ15日号で毎月紹介していただきます。
また、登録品は提供する方が保管し、価格や運搬方法は当人同士で相談していただきます。
▼申し込み 火曜・金曜日(祝日を除く)の10時から16時までに登別消費者協会(☎8307)

まちの幼稚園



リリー文化幼稚園



白菊幼稚園



白雪幼稚園



登別カトリック聖心幼稚園

表① 市内の幼稚園（平成12年度）

区分	幼稚園名	所在地	創立・設立年月	定員
市立	富士幼稚園	富士町7丁目1-1	昭和51年4月	160人
	若草幼稚園	若草町2丁目11-1	昭和52年4月	160人
	登別温泉幼稚園	登別温泉町92-7	昭和53年4月	80人
私立	登別カトリック聖心幼稚園	中央町7丁目15	昭和34年9月	150人
	白雪幼稚園	登別東町4丁目20-1	昭和38年4月	80人
	白菊幼稚園	桜木町2丁目5-3	昭和39年6月	160人
	リリー文化幼稚園	鷺別町2丁目17	昭和41年11月	140人

昭和34年のぼりべつ初の幼稚園が誕生

満3歳から小学校就学前の子どもたちを保育し、心身の発達を助長する教育機関「幼稚園」。

世界で初めて幼稚園が設立されたのは、今から約60年前。日本では、1876（明治9）年に、国内最初の幼稚園が設立されました。

私たちのまち『のぼりべつ』に幼稚園が初めて設立されたのは1959（昭和34）年。

「のぼりべつ」の幼稚園教育は、この私立幼稚園の設立から始まりました。

その後、昭和30年代後半から40年代前半にかけて、私立の幼稚園が市内に設立されましたが、昭和40年代後半の第2次ベビーブームなどによる急激な幼児数の増加と、4歳児からの2年保育を奨励する国の施策などのため、幼稚園の間口を急ぎま広げる必要性が生じました。

市は、多くの子どもたちが、人間形成の基礎をなす幼児教育を受けることができる環境を整えるため、昭和51年に富士幼稚園、52年に若草幼稚園、その翌年には登別温泉幼稚園を開園し、幼稚園教育の充実に努めてきました。

移りゆく時代 ベビーブームから 少子化へ

市内に最初の幼稚園が設立されてから約40年。

その間、幼稚園を取り巻く環境は大きく変化し、晩婚化や結婚しない男女の増加などに起因する少子化が進み、著しく幼児数が減少してきました。

第2次ベビーブームを境に、年々減少していった幼児数。少子化の波は登別市にも押し寄せ、市立幼稚園3園がそろった昭和53年には1千80人を数えた4、5歳児も、平成12年には40人まで減少。平成16年にはさらに20人まで減少することが予想されます。

こうした幼児数の減少のため、昭和53年には定員100人（3園合計）に対し、38人が入園（入園率87%・富士幼稚園

4月 271
5月 233

表② 登別市公私立幼稚園就園状況と保育所入所状況（各年5月1日現在、単位：人）

年	区分	幼児数	市立幼稚園				私立幼稚園		保育所入所幼児数	合計	入園・所率
			富士	若草	登別温泉	計	市内	室蘭市内			
昭和53年	4歳児	915	80	80	13	173	202	28	177	580	63.4%
	5歳児	949	77	80	18	175	432	39	206	852	89.8%
	計	1,864	157	160	31	348	634	67	383	1,432	76.8%
昭和55年	4歳児	864	80	80	14	174	222	38	225	659	76.3%
	5歳児	950	77	80	19	176	421	45	264	906	95.4%
	計	1,814	157	160	33	350	643	83	489	1,565	86.3%
昭和60年	4歳児	700	80	79	6	165	224	38	104	531	75.9%
	5歳児	761	78	78	13	169	310	82	159	720	94.6%
	計	1,461	158	157	19	334	534	120	263	1,251	85.6%
平成2年	4歳児	549	37	80	6	123	208	42	99	472	86.0%
	5歳児	606	59	80	8	147	254	64	118	583	96.2%
	計	1,155	96	160	14	270	462	106	217	1,055	91.3%
平成7年	4歳児	440	43	48	3	94	183	58	86	421	95.7%
	5歳児	519	65	60	7	132	200	78	77	487	93.8%
	計	959	108	108	10	226	383	136	163	908	94.7%
平成12年	4歳児	457	56	32	3	91	165	46	128	430	94.1%
	5歳児	487	56	52	6	114	197	49	103	463	95.1%
	計	944	112	84	9	205	362	95	231	893	94.6%
平成16年	4歳児	407	413								
	5歳児	453	438								
	計	860									

※平成16年度は、平成12年5月1日現在の該当幼児数。

98：1計、若草幼稚園10計、登別温泉幼稚園38・8計）していた市立幼稚園も、平成1年からは3園ともに定員に満たない状況となり、平成12年には入園総数55人、入園率51・3計（富士幼稚園70・0計、若草幼稚園22・5計、登別温泉幼稚園11・3計）まで落ち込みました。

平成13年度の応募状況は平成12年12月末現在で、富士幼稚園42人、若草幼稚園24人、登別温泉幼稚園4人の計70人で、現在の4歳児を合わせた園児数は22人となる見込みです。

また、市立幼稚園3園の施設は、建設されてから20数年の歳月が経過しているため、老朽化が著しくなっています。

行政から民間へ 民と官の役割分担を 明確に

変化しつつける社会情勢、多様化する市民ニーズ。

『のぼりべつ』というまち全体を見据えたまちづくりを進めていくためには、行政が取り組まなければならない事業と民間にゆだねて進めていく事業を明確にし、民と官の役割を分担していく必要があります。

平成11年度の市立幼稚園運営の決算状況は、支出額が園児の教材や幼稚園の光熱水費、維持管理経費など、幼稚園の維持管理に要する経費に人件費を加えた8千300万円、収入額が保育料1千300万円に入園料を加えた1千800万円。その差額が6千500万円となっています。

平成7年11月策定の『登別市行政改革実施計画』では、登別市行政改革推進委員会の意見や提言を踏まえ、時代に即応した事務事業や組織・機構の見直し、効率的な行政運営、公共施設の在り方などについて、平成8年度を初年度とする5年間に具体的実施計画と検討項目を明確にしました。

また、市民のみなさんとともに作り上げた『登別市総合計画』（平成8年4月策定）では、50年後のあるべき『のぼりべつ』の姿を描き、私たち市民にとって望ましいまちを表現できるよう基本的な考え方を表しました。

市立幼稚園の在り方については、これらの過程を通し、また、市立幼稚園の定員割れや市立幼稚園存続による私立幼稚園運営への影響を考え、市立幼稚園を廃園し、幼稚園教育は民間にゆ

市は、民と官の適切な役割分担を図るとともに、計画的・効率的な行政運営を進めるため、行政改革に取り組んできました。

行政改革を進めるにあたっては、それぞれの段階で市民各界各層から構成される委員会などの審議を受けたり、市民のみなさんへの情報提供に努めるなど、現状をご理解いただく機会を設け、さまざまなご意見をいただくよう努めてきました。

平成1年1月に策定した『公共施設の整備方針』では、地域・文化・教育・福祉などの市民ニーズを的確に反映するため、施設の規模や適正配置など、総合的な見地から公共施設の管理運営の在り方・方向性を定めました。

平成7年11月策定の『登別市行政改革実施計画』では、登別市行政改革推進委員会の意見や提言を踏まえ、時代に即応した事務事業や組織・機構の見直し、効率的な行政運営、公共施設の在り方などについて、平成8年度を初年度とする5年間に具体的実施計画と検討項目を明確にしました。

また、市民のみなさんとともに作り上げた『登別市総合計画』（平成8年4月策定）では、50年後のあるべき『のぼりべつ』の姿を描き、私たち市民にとって望ましいまちを表現できるよう基本的な考え方を表しました。

市立幼稚園の在り方については、これらの過程を通し、また、市立幼稚園の定員割れや市立幼稚園存続による私立幼稚園運営への影響を考え、市立幼稚園を廃園し、幼稚園教育は民間にゆ

市は、民と官の適切な役割分担を図るとともに、計画的・効率的な行政運営を進めるため、行政改革に取り組んできました。

行政改革を進めるにあたっては、それぞれの段階で市民各界各層から構成される委員会などの審議を受けたり、市民のみなさんへの情報提供に努めるなど、現状をご理解いただく機会を設け、さまざまなご意見をいただくよう努めてきました。

平成1年1月に策定した『公共施設の整備方針』では、地域・文化・教育・福祉などの市民ニーズを的確に反映するため、施設の規模や適正配置など、総合的な見地から公共施設の管理運営の在り方・方向性を定めました。

平成7年11月策定の『登別市行政改革実施計画』では、登別市行政改革推進委員会の意見や提言を踏まえ、時代に即応した事務事業や組織・機構の見直し、効率的な行政運営、公共施設の在り方などについて、平成8年度を初年度とする5年間に具体的実施計画と検討項目を明確にしました。

また、市民のみなさんとともに作り上げた『登別市総合計画』（平成8年4月策定）では、50年後のあるべき『のぼりべつ』の姿を描き、私たち市民にとって望ましいまちを表現できるよう基本的な考え方を表しました。

市立幼稚園の在り方については、これらの過程を通し、また、市立幼稚園の定員割れや市立幼稚園存続による私立幼稚園運営への影響を考え、市立幼稚園を廃園し、幼稚園教育は民間にゆ

市は、民と官の適切な役割分担を図るとともに、計画的・効率的な行政運営を進めるため、行政改革に取り組んできました。

行政改革を進めるにあたっては、それぞれの段階で市民各界各層から構成される委員会などの審議を受けたり、市民のみなさんへの情報提供に努めるなど、現状をご理解いただく機会を設け、さまざまなご意見をいただくよう努めてきました。

平成1年1月に策定した『公共施設の整備方針』では、地域・文化・教育・福祉などの市民ニーズを的確に反映するため、施設の規模や適正配置など、総合的な見地から公共施設の管理運営の在り方・方向性を定めました。

表③ 市立幼稚園運営費決算額

年 度	管理等経費	人件費	小計 (A)	保育料	入園料	小計 (B)	差引額 (A)-(B)
平成9年度	1,415万円	7,124万円	8,539万円	1,722万円	50万円	1,772万円	6,767万円
平成10年度	1,377万円	7,284万円	8,661万円	1,775万円	51万円	1,826万円	6,835万円
平成11年度	1,426万円	7,328万円	8,754万円	1,774万円	45万円	1,819万円	6,935万円
平成12年度 (予算額)	1,466万円	7,178万円	8,644万円	1,703万円	34万円	1,737万円	6,907万円

だねていく方向で検討を重ねてきました。

昨年の3月には、将来にわたる市内での幼稚園教育の安定・充実に図るため、幼稚園教育は私立にゆだね、市は幼稚園教育振興のための総合的な施策の推進にあたり、市立幼稚園3園は、平成14年度の4歳児入園を停止し、平成15年3月31日をもって廃園する基本方針を固めたところです。

保護者の負担の軽減と幼稚園教育実践の場への支援

市は、これまでも、幼稚園教育振興のため、私立幼稚園の父母負担の軽減を図り、公私間格差を埋めることを目的に、登別市独自の助成制度「私立幼稚園特別就園奨励費補助金」を設け、入園時に2万円を保護者に助成してきました。

この制度は、市立幼稚園廃園後も「私立幼稚園入園料補助金」として継続実施していく予定です。また、保護者の所得に応じて助成する国庫補助制度「私立幼稚園就園奨励費補助金」も継続実施し、市民税の所得割課税額が10万2千100円以下の世帯へ、

- 第1子は、5万4千900円から13万3千750円まで。
- 第2子は、7万5千円から14万6千円まで。
- 第3子以降は、9万6千円から16万円まで。

の範囲で奨励費を交付し、両制度を活用して保護者負担の軽減を図っていき

市立幼稚園についての説明会

登別市の市立幼稚園を取り巻く現状や廃園についての経緯経過、市の今後の助成・支援施策などを説明する『市立幼稚園についての説明会』を開催します。

市立幼稚園入園児の保護者や、小さなお子さんのいる保護者、市立幼稚園の在り方について関心のある方など、多くの方の参加をお待ちしております。

▶日時・場所

月 日	時 間	場 所
2月13日(水)	18:30~	登別公民館
2月14日(木)		市民会館
2月15日(金)		婦人センター
2月16日(土)	13:00~	登別温泉公民館

▶対象 市内に居住または通勤・通学する方

▶申し込み 当日、直接会場にお越しください

▶問い合わせ 学校教育課 (☎01162)

たいと考えています。

この両制度の平成11年度決算での支出額は、市独自の制度である「私立幼稚園特別就園奨励費補助金」が55万円、国庫補助制度である「私立幼稚園就園奨励費補助金」が3千100万円9千円(うち、国からの補助は90万4千円)となつています。

また、今後も「のぼりべつ」の幼稚園教育の場である私立幼稚園を支援するため、市内の私立幼稚園の管理運営費や園舎整備の支援を行うとともに、市内の私立幼稚園4園の園長などで組織される「登別市私立幼稚園協会」へ、幼稚園教諭の資質向上・研さんを目的とする「研修費補助金」を引き続き交付するほか、補助金額の増額を検討しています。

まちの幼稚園の現状を正しく認識できる場を

市立幼稚園の今後の運営について、インターネットの市の公式ホームページへ、多くの方からご意見が寄せられました。

ご意見の中には、市立幼稚園廃園に反対する意見もあれば、賛成の意見もあり、投稿者間でさまざまな意見交換が行われています。

市は、幼稚園教育を民間にゆだねる

表④ 私立幼稚園と市立幼稚園の就園年間負担額

区 分		市 民 税 非課税世帯	市 民 税 均等割世帯	市民税所得割 課税額 8,800 円以下の世帯	市民税所得割 課税額102,100 円以下の世帯	その他の世帯
私立幼稚園就園年間負担額		231,500円	231,500円	231,500円	231,500円	231,500円
補助金	私立幼稚園就園奨励費 (国庫補助制度)	133,750円	101,800円	78,100円	54,900円	0円
	私立幼稚園特別就園奨励費 (市単独補助制度)	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円
差引実負担額 (A)		87,750円	119,700円	143,400円	166,600円	221,500円
市立幼稚園就園年間負担額 (B)		66,000円	86,000円	86,000円	86,000円	86,000円
差引負担増額分 (A) - (B)		21,750円	33,700円	57,400円	80,600円	135,500円
者補助 の金割 合給	平成10年度	3.5%	4.7%	5.6%	69.7%	16.5%
	平成11年度	5.5%	6.2%	9.0%	68.9%	10.4%
	平成12年度	5.1%	6.7%	6.0%	66.3%	15.9%

※表内の数字はすべて年間額。また、受給割合は平成10・11年度が年度末現在。平成12年度は11月末現在。

表⑤ 表④の私立幼稚園年間就園負担額の内訳 (平成12年度)

区 分	費 目	私立幼稚園 A	私立幼稚園 B	私立幼稚園 C	私立幼稚園 D
入園時	入 園 料	50,000円	50,000円	50,000円	60,000円
	施設維持費	30,000円	30,000円	30,000円	30,000円
申込時	入園検定料	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
進級時	進級施設維持費	10,000円	10,000円	10,000円	0円
小 計		91,000円	91,000円	91,000円	91,000円
毎 月	保育料 (月額)	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円
	暖房費 (月額)	500円	500円	500円	1,000円
小計 (2年間合計)		372,000円	372,000円	372,000円	384,000円
合 計		463,000円	463,000円	463,000円	475,000円
1年間負担額		231,500円	231,500円	231,500円	237,500円

ことを検討する際、私立幼稚園の協力や、受け入れ態勢の整備が不可欠であることから、これまでも登別市私立幼稚園協会との協議を進めるとともに、昨年4月には市議会の総務委員会に現状報告を行い、8月には同協会から私立幼稚園の現状や今後の助成・支援施策などが盛り込まれた「市立幼稚園園の基本方針」についてご了承をいただき、積極的に協力したいとの意向を確認しました。

また、10月30日から11月28日にかけて市内9地区で開催した連合町内会単位での「地区懇談会」では、各町内会の代表者の方々に私立幼稚園の今後の運営についての経緯経過を説明し、10月31日から11月2日にかけて、市立幼稚園3園で保護者を対象とした説明会を開催しました。

さらに、平成13年度に入園を希望する保護者を対象に、平成14年度は3歳児のみの運営となることなど、今後の市立幼稚園運営の方針を説明してきました。

市は、今後も8ページの「市立幼稚園についての説明会」の日程のとおり、市内4地区で市立幼稚園入園児の保護者や、小さなお子さんのいる保護者などを対象にした説明会を開催します。

なお、今回、「広報のぼりべつ」に掲載した説明会の日程や行政改革推進関係情報、市立幼稚園に関する情報などについては、市の公式ホームページにも掲載していますので、ご利用ください。

▼市立幼稚園の運営に関するご意見・ご質問については、学校教育課 (☎1162、FAX9744、Eメール: school@city.noboribetsu.hokkaido.jp)

▼登別市の公式ホームページ
http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp



我が家の秘伝の味を披露 ～第24回つけものフェスティバル～

『第24回つけものフェスティバル』が1月12日(金)、市民会館で開催され、家庭で漬けられた漬物のコンクールや地場産品の販売などが行われました。『つけものコンクール』には56人が参加し、かず漬けやかずみそ漬け、ぬか漬け、魚漬け、アイデア漬けA・Bの6部門に計112点が出品。各家庭の秘伝の味を競い合いました。

審査は、一般公募や各種団体から選ばれた審査員30人で行われ、備ごたえや味などが吟味された結果、各部門の上位3人が入賞し、表彰されました。



市民生活の安全を願って ～消防出初め式～

1月7日(日)、市民会館で正月恒例の登別市消防出初め式が行われました。

今年の出初め式には、消防団員や消防職員をはじめ、特別参加の陸上自衛隊幌別駐屯地の消防ポンプ班の隊員を含む186人が参加しました。

花火を合図に、はしご車が『新世紀市民の安全を祈って』と書かれた長さ15mの垂れ幕を揚げ、参加者が分列行進して入場。ポンプ車の放水の後、市長の観閲を受け、今年1年の防災への決意を新たにしました。その後、式典が行われ長年にわたり消防団活動をされた方などが表彰されました。



12月18日(日)、市民会館で『第11回のほりべつ市民大学』が登別市市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会の主催で開催され、約50人が受講しました。

市制施行30周年・西暦2000年の記念事業として行われたこの市民大学は、毎回、登別の人・自然・文化・産業などにかかわるテーマを取り上げ、大学などから講師を招いて講義を行うもので、平成12年1月から開催され、11回目の開催となりました。

今回は「まちづくりと生涯学習」というテーマで、北海道大学高等教育機能開発総合センター・生涯学習計画研究部教授の木村純さんを招いて講義を行いました。木村さんは、生涯学習の意義や日本における生涯学習政策の展開、各地で取り組んでいる地域資源を活用した生涯学習の実践事例などを話されました。

また、地域づくりやまちづくりにかかわる生涯学習の課題として、市民と市職員の協働による地域課題の発見過程を大切にすることや市民がまちづくりに対し、参加・決定の主体となり、本当の意味での市民になることなどを訴えていました。



▲生涯学習とまちづくりをテーマに講義を行った木村純さん

生涯学習で地域づくり まちづくりを

（第11回のほりべつ市民大学）

Eメールをマスターしたい

～市民パソコン教室～

1月9日(火)、登別地方高等職業訓練校主催による市民パソコン教室が開かれました。この教室は、パソコンの基礎的な使い方を覚えてもらうため、年7回開催しているもので、この日は学生や会社員、主婦など23人が参加。電源の入れ方やマウスの使い方など初歩的な操作から指導を受けました。

若草町から参加した主婦松下順子さんは「インターネットにアクセスしたり、札幌に住む娘とメールのやり取りをするのが目標です」と話しながら真剣なまなざしでモニターに向かっていました。このパソコン教室は、2月末までに15回開かれ、ワープロや表計算ソフトの使い方などを学びます。



職員協力交流事業・協力交流研修員 ツイ・ツェンツレンさん送別会



▲「鬼大使」の委嘱を受け、上野市長と握手するサンドウイさん

雪だるまができたよ

～親子ステンシル教室～

文化・スポーツ振興財団主催の「親子ステンシル教室」が、1月10日(水)から4日間にわたり、市民会館と鷺別公民館を会場に開催され、30組65人の親子が参加しました。

ステンシルは、トレーシングペーパーに好みの絵を書き、カッターで切り抜いて型を作り、上からステンシル筆やスポンジなどでアクリル絵の具を塗り込んで壁掛けなどをつくるもの。参加した親子は、中川勢津子さんらの指導のもと、手に絵の具をつけながら、うさぎや雪だるまなどの絵に挑戦しました。



希望に満ちた未来を開拓 します ～登別市成人祭～

1月8日(月)、登別マリンパークニクスで「平成13年登別市成人祭」が行われました。

この日は新成人の門出を祝福するような快晴で、式典には今年の新成人対象者658人のうち、501人が参加。来賓の祝辞の後、新成人を代表して堀田裕幸さん(専門学校生・鷺別町)と高野佳子さん(大学生・富浦町)が「希望に満ちた未来を開拓し、平和で明るいまちづくりに努めます」と力強く誓いの言葉を述べました。

式典後、真新しいスーツや華やかな振りそで姿の若者たちは、登別温泉宿泊券などが当たる抽選会を楽しんだり、ニクス城を背景に記念写真を撮り合ったりして、互いの成人の門出を祝いました。



▲誓いの言葉を述べる堀田さん

サンドウイさんが『鬼大使』に ～研修を終え、モンゴル国に帰国～

自治体職員協力交流事業(自治省などが実施)の協力交流研修員として、昨年6月から登別市役所で研修していたモンゴル国ウランバートル市職員サンドウイ・ツェンツレンさんが、今年の12月29日(金)に帰国しました。

研修テーマの土地の管理や都市開発などを学びながら、イベントや学校訪問などを通じて多くのみなさんと交流したサンドウイさんは、「登別で学んだことをウランバートルで生かしたい。温かく迎え入れ、たくさんの方を教えてくれたみなさんのことは、絶対に忘れません」と語り、帰国の途につきました。

サンドウイさんは、帰国に先立つ12月26日(火)に市から「登別市ふるさと大使」(通称・鬼大使)が委嘱されました。

この「鬼大使」は、首都圏で活躍する登別出身者や登別にゆかりのある方に委嘱しているもので、サンドウイさんには、モンゴル国における登別のPRに活躍してもらうことになりました。



▲サンドウイ・ツェンツレンさん

琴の演奏でクリスマスソ ング ～しんた21X'masミニコンサート～

12月25日(月)、登別市総合福祉センター「しんた21」で、「しんた21X'masミニコンサート」が開催され、来館者など約50人が琴、尺八、三味線による三曲の演奏を楽しみました。

このコンサートは、デイサービス利用者などに普段耳にしない音色や楽器を聞いて見て楽しんでもらうと、平成6年から毎年行われています。

今回は、登別三曲協会の9人が「春の海」、「ホワイトクリスマス」などを演奏。最後に琴の伴奏で「きよしこの夜」を全員で歌い、楽しい一時を過ごしました。



市民リポーター
伊勢 啓子さん

●いせ けいこ
片倉町在住。37歳。
帯広市出身。主婦。専門学校卒業後、帯広市内の私立保育所に3年間勤務。昭和62年、結婚と同時に登別市に転入。小学生2児の母。



▲1、2歳児の親子を対象に、遊びを体験しながら親子の交流を深める『遊びの広場』（子育て支援センター）。



▲子育て支援センター

みんなで広げよう 子育ての輪

子育て環境の現状と課題

第2次ベビーブームを経て、減少を続ける日本の子どもたち。この少子化に対応するため、安心して子どもを生み、健やかに育てる環境づくりが全国的に進められています。

昨年4月に家庭における子育て支援を目的に開設された『登別市子育て支援センター』と幼児をもつ親が集い運営する子育てサークルを訪ね、子育て環境の現状と課題についてレポートしました。

少子化と、子育て支援センターの役割

子どもは、社会にとって掛け替えのない存在です。しかし、出生率は低下を続け、21世紀の日本は平均で年60万人ずつ人口が減少し続けると予想されています。地域社会や経済の活力の低下から、子どもの社会性が育ちにくいといったことまで、さまざまな影響が懸念されています。

少子化は、登別市も例外ではありません。昭和55年に約4千900人いた就学前の児童も減少傾向が続き、平成12年には約2千70人となっています。

市は、平成9年に安心して子どもを生み、健やかに育てる環境づくりを進めるための施策などを定めた「登別市子育て支援総合計画（登別市エンゼルプラン）」を策定。この施策のひとつ「家庭における子育て支援」のために設けられたのが、「登別市子育て支援センター」です。

開園から10カ月、「登別市子育て支援センター」はどのように利用されているのでしょうか。同センターの保育士の内藤春美さんに、お話を聞きました。

「利用者は順調に増えています。ここに来るみなさんは育児に熱心な方が

多いようですが、それでも核家族化や少子化の影響で母親同士の出会いの場が限られ、育児についての情報が不足しがちのようです。ここでは育児相談はもちろん、お母さん同士の交流の中で、子育ての情報を得ることができま
すし、育児で疲れた心が癒される方も



内藤 春美さん

多いようです。家庭で、昼間子どもと二人きりで過ごされるお母さんには、ぜひこのセンターを利用していただきたいですね。相談ごとや問題がなければ行っただけなのか、と聞かれることもありますが、そんなことはありません。気軽に利用していただきたいですね」と同センターの活用方法などについて説明していただきました。
このセンターが、子育てを始められ



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。



▲親子でクリスマス用のスタンドグラスを制作する子育てサークル『うんちず』のみなさん。

▼子育て支援センターでは、来園のほか、電話・ファクスによる『育児相談』を受け付けている。



▲子育てに関する講演会や講習会などを実施する『子育て講座』（写真は昨年9月に実施された講習会『離乳食作り』）。

「うんちず」の代表者岸本妙子さんは、「サークルでは、お母さん同士でアイデアを出し合って、毎回、楽しい会を催しています。現在21組の親子が加入していますが、みなさんこのサークルに加入して友達になったという人ばかりなんです。入会を希望され



岸本 妙子さん

訪問した日は、子どもたちの元気な声とお母さん方の笑い声が交錯する相気あいあいとした雰囲気なか、みなさんでクリスマス用のスタンドグラスを制作していました。

子育て支援センターの大きな役割の一つに育児サークルの育成・支援があり、職員が育児サークルへの遊びの紹介や運営の相談などを行っています。現在、子育て支援センターが育成・支援している子育てサークルの一つで平成4年に結成された『うんちず』を訪ね、サークルの運営や同センターの活用などについて、お話を伺いました。

母親が健康な心で育児に取り組める環境を！

て間もないお母さんの情報交換と交流の場、そして心のよりどころとなるよう期待しています。

「子どもが生まれると自由が利かなくなり、家に閉じこもりがちになってしまします。これではいけないと思い、公園などに行くのですが、なかなか小さな子どもを連れただけに出会う機会も

8年にご主人の転勤で登別へ転入し、4歳と9カ月の2児のお子さんを育てられている坂井祐子さん（新川町在住）もそんな一人。



坂井 祐子さん

「うんちず」のメンバーで、平成20年に入会した。子育て支援センターのこの活動は本当に助かりますね」と話してくれました。

このサークルをリポートして実感したのは、母親同士の交流の大切さです。特に市内に転入したばかりで、小さな子どもとお母さんにとっては、育児の苦労も多いと思います。

子育て支援センターの事業を詳しく知りたい方や利用を希望される方は、電話またはファクスでお問い合わせください。

▼問い合わせ 子育て支援センター
（富士町7丁目2-1 富士保育所横）☎3715、☎3600

私も夫も実家が遠方にあり、登別市に転入したところは近くに友人もいませんでしたので、子育てでは同じアパートに住む方や夫の会社関係の方など、さまざまな方のお世話になりました。今回のリポートで、子育て支援センターを中心に、地域の子育ての輪が広がっていくことを実感でき、うれしくなりました。

子育てが「孤育て」にならぬよう、さらに子をもつ親のニーズに合ったサービスが展開され、子育てを社会全体で応援していく動きが広まっていくことを願っています。

子育てが「孤育て」にならないために

ありませんでした。2年前に市の広報紙でこのサークルを知り、参加させていただきました。子ども同士で遊ばせることや、さまざまな情報交換ができる育児仲間ができ、本当に助かっています。母親が健康な心で育児に取り組めることが、子どもにとっても、家族にとっても、大切ではないでしょうか。と坂井さんは話してくれました。



元氣



今日のアドバイザー
竹内 芳子 保健婦

40歳を過ぎたころから、女性の体をコントロールする女性ホルモンが分泌が減り始まります。この変化に体が適応できなくなると現れるさまざまな症状が更年期障害です。

症状にはそれぞれ個人差があります。特に多いのが肩こり・頭痛・冷え・のぼせ・発汗・不眠など不定愁訴と呼ばれる不快な症状が続きます。気になる症状があるときは自己判断せず医師に相談しましょう。更年期障害の治療方法は、女性ホルモンを補うホルモン補充療法と体質を総合的に改善していく漢方療法があり、心因的な要素が強い場合には抗精神薬が処方されることもあります。

また、更年期以降多くなるトラブルに動脈硬化と骨粗しょう症があります。女性ホルモンには、血管にコレステロールがたまるのを防ぐ働きと、カルシウムの吸

更年期、自分の健康を見直すきっかけに



更年期を乗り切るため、積極的に体を動かそう

収を助ける働きがあり、更年期を迎え女性ホルモンが分泌が減ると、動脈硬化など血管の障害が起きやすくなるとともに、骨粗しょう症にかかりやすくなります。

更年期はとかく重苦しい時期と思われがちですが、健康を見直し第二の人生をスタートさせるきっかけとして次のことに気をつけましょう。

- ①更年期は多かれ少なかれだれもが経験するものと割り切り、意識し過ぎないようにする
 - ②熱中できる趣味などをもつ
 - ③栄養バランスなど食生活に気を配る
 - ④運動不足にならないよう体を動かす
 - ⑤症状が重いときには、無理をせず、家族に協力してもらおう。愛情は何よりの薬です
- ⑥何でも相談できるかかりつけの医師を見つけておく

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

若草俳句会



人生の素晴らしさを教えてくれる俳句は、一生付き合っていくことができる大切な友達。

「会では会員のみなさんがつくった句を持ち寄り、互いに選句しながら、和気あいあいと俳句を学んでいます。仲間づくりにもなっているように、みなさんとても楽しそう。俳句というとみなさん堅苦しい印象をお持ちのようですね。日常の中で身の回りのことに関心を持ち、それを俳句と結びつけ、心にとめてみる。そんな身近なことから、俳句が生まれます。俳句は続けるほどに、人生の素晴らしさを教えてくれ、人との出会いもたくさん与えてくれます。俳句は、一生付き合うことができる大切な友達です」と話す会長の山形真子さん。



▲句を持ち寄り、互いの句から俳句を学ぶ「若草俳句会」のみなさん

「若草俳句会」に入会して3年目の荒川恵子さんは、「入会するまでは、俳句を作った経験がありませんでした。でも、初心者にもわかりやすく、丁寧な会長の指導と会員のみなさんの和やかな雰囲気もあって、楽しく俳句を勉強させていたれています。俳句を始め、句づくりの題材を求めて身の回りの景色を眺めているうちに、それまで気にとめなかったものに心ひかれるようになりました。風に揺れる野草や雲の動き、川の流れ、そして季節の移り変わりなど、自分がこんなに美しいものの中で暮らしているんだと実感しました。今では、会員のみなさんとの交友もあり、俳句は私の生きがいです」と笑顔で話してくれました。

入会を希望される方は、山形さん(☎8034)までどうぞ。

楽しかったこと、悲しかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクス、電子メールでお寄せください。なお、個人や団体への中傷、営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
☎ 011-221-122
FAX 011-221-108
Eメール: pr@city.noboribetsu.hokkaido.jp

マナーの悪い若者たちへのメッセージ

近年、成人式での若者たちのマナーの悪さが、全国的な問題としてマスコミで取り上げられるようになりました。

私語によるざわつきにとどまらず、飲酒をしたり、ヤジをとばしたりする若者もいると聞きます。登別市の成人祭は、どうだったのでしょうか。

とここで、わたしたち大人のマナーはどうでしょうか。さして、褒められたものではないでしょう。わたしたち大人が「儀式」の意味を認識し、そこに携わる方々の思いを考え、ふるまうことで、若者たちへのメッセージを送れないものでしょうか。

(二市民)

鬼の威で不景気を追い払おう!

節分に合わせて催される『登別温泉湯まつり』と『鬼まつり』が近づいてきた。

節分といえば豆まき隊が「鬼は外」と恐れ顔をした鬼を追い払うのが常識。

ところがここでは、若者やチビッ

コが間魔王の使者である鬼を鐘や太鼓で先導して街を練り歩き、鬼と一緒に豆を投げ、金棒を振り回して、この世の悪である「疫病神」に戦いを挑む。

日本全国広しといえども、人間が天敵である鬼と力を合わせて厄を追い払い、世直しをする地方はそうないだろう。地底から豪快に湯を吹き上げるこの街には、七福神の施しを待つストーリーよりもこの方がずっとふさわしい。

虎の威ならぬ鬼の威によるカラ元気でもいい。祭りの実行委員とともに不景気を追い払おう頑張っていましょー!

(二市民)

ふるさとの文化遺産

登別市指定文化財 たかむらとうん 高村東雲作観音像



【所在地】
登別市登別温泉町119番地1
観音山聖光院

登別温泉町にある観音山聖光院の本堂には、彫刻家の三代目高村東雲が制作した1体の聖観音像(写真・高さ50センチ)と33体の観音像が安置されています。

これらの像は、登別温泉町に住んでいた故・岩原菊次郎さんが、戦時中、東京から栗山町に疎開していた東雲と知り合い、その後、制作を依頼したものです。

三代目東雲による一連のまとまった遺作として貴重なこれらの像は、平成5年に登別市指定文化財に指定されました。

▶問い合わせ 社会教育課
(☎1129)



あすなろ

ひろせ あさひろ
広瀬章宏さん(28歳)

広瀬商店勤務

将来は店を引き継いで、
地域のために一層頑張りたい

「良い品物を安く提供することとお客さんに高齢者の方が多いので、配達サービスを心掛けています」と話す広瀬さんは、新和デパート内で親が経営する青果菜店で働いています。

登別商工会議所の青年部で広報委員長として活動している広瀬さんは、「今年も2月3日に、『鬼まつり』を開催し、幼稚園や飲食店などで福の豆をまきます。子どもたちや地域の方に喜んでもらえるのが何よりです」と地域づくり活動にも一生懸命です。

「青年部の地域づくり活動を仕事にも生かし、将来は店を引き継いで地域のために頑張りたい」と意欲的な広瀬さんは、地域にとって掛け替えのない人です。



初めて筆を握ったときは
柔らかくて書きにくいと
思いました

菅原さんが書道を始めたのは、
小学校入学前の6歳のとき。3歳
違いのお姉さんと一緒に書道教室
『墨生書道学院片倉教室』に通い
始めました。

「もともと字を書くのが好きで
したが、初めて筆を握ったときは
柔らかくて書きにくいと思いまし
た」と毛筆の印象を話す菅原さん。
以来めきめきと上達し、小学2年
生で初段を取得しました。

「教え子の中では最年少で初段
を取りました。筆を持ち、白い紙
に向かう瞬間の集中力があります
ね。いつもおとなしく黙々と書い
ています」と入門当時から菅原さ
んを指導している山崎光雲さんは、
菅原さんの努力を評価します。

小・中学生と高校生が出品した
今回の展覧会の出品総数は、約6
千点。そのうち特別賞を受賞し
たのはわずか28点でした。

「課題の中から『生活』という
文字を選び、昨年の10月から何十
枚も書いて練習しました。筆のは
ねるところや止めるところを特に
気をつけて書きました」と菅原さ
ん。



▲書道教室で先生の指導を受ける菅原さん

「子どもらしい元気さや個性が
評価されたのだと思います。もち
ろん基礎もしっかりしています。
これからは、もっと個性を伸ばし、
芸術性を高めてほしいですね」と
山崎さんは菅原さんの将来に期待
しています。

4度目の挑戦で初めて特別賞を
受賞した菅原さんは、1月6日に
札幌市で開かれた表彰式に両親と
共に出席し、小さな手に賞状と楯
が贈られました。

「お父さんとお母さんが『よか
ったね』って褒めてくれてうれし
くなりました。これからは先生の
言うとおりのびのびとした元気
な字を書きたいと思います。中学
生や高校生になってもずっと書道
を続けていきたいです」と菅原さ
んはにっこりとほほ笑んでくれま
した。



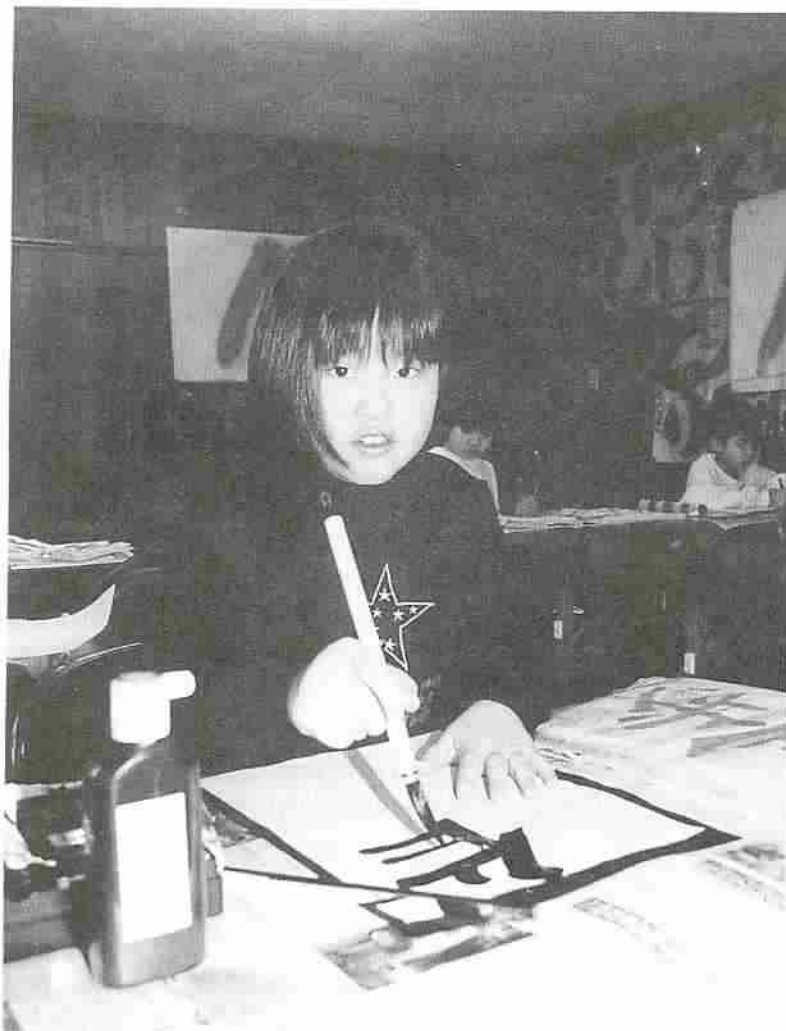
KIRARI

すが わら ゆ き
菅原由季さん(新川町)

1月に札幌市で開催された北海道書道教育連
盟などが主催する第53回北海道学生書道展覧会
で、見事最優秀賞にあたる特別賞・北海道国語
教育連盟賞を受賞した菅原由季さん。小学4年
生では全道でただ一人の荣誉に輝きました。

片倉町の書道教室に通い練習に打ち込む菅原
さんに話を聞きました。

これからものびのび
とした元気な字を書
いていきたい



平成2年6月、室蘭市生まれ。10歳。
幌別西小学校4年生。6歳から書道教室に通い、小学2年で書道の初
段を取得。現在準6段。書道のほかにピアノとソロバンを習っている。
好きな科目は国語。趣味はテレビゲームなど。



情報あらかるよ

2月							3月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31	

国民健康保険からのお知らせ 年に一度は 短期人間ドックの受診を!

市は、短期人間ドックの受診料を助成しています。検診料3万6千円のところ、自己負担額3千円で受診できます。ぜひご利用ください。

▼対象 国民健康保険に加入している35歳以上の方で、現在入院や通院をしていない方

▼健診内容 胸部・胃部エックス線、血液、尿、心電図、腹部エコーなどの検査

▼受診場所 室蘭・登別総合健診センター、登別厚生年金病院

▼自己負担額 3千円（70歳以上の方は2千円）

▼申し込み 保険年金課（☎①771）

『登別市みどりづくりマニユアル』をご利用ください

市は、みどり豊かなまちづくりを進めるため、「登別市みどりづくりマニユアル」を発行しています。

このたび第1号として、花をテーマにした『登別市花いっぱい!』編が完成しました。

今号では、登別市内でガーデニング

グをしているお宅5軒の紹介と、登別市市民憲章推進協議会が行っている花壇コンクールで入賞した花壇をカラーで紹介しています。

ぜひ、今年の花づくりの参考にしてください。

▼問い合わせ 都市計画課（☎④4115）

日本赤十字社 家庭看護法（短期） 講習会を開催します

家庭における病人の看護や介護の知識と技術を身につけるため、専門の講師がわかりやすく指導します。

▼日時 2月19日（土）10時～15時

▼場所 しんた21

▼定員・受講料 30人・無料

▼申し込み 2月13日（火）までに日本赤十字社登別市地区事務局（社会福祉課内 ☎①911）

日本赤十字社 雪上安全法スキーパトロール 養成講習会を開催します

スキー場での事故や急病から自分

自身を守るとともに、急病人やけが人を救助し、正しい応急手当ができるよう、その知識と技術を習得してみませんか。

▼月日 2月24日（土）・25日（日）、3月10日（土）・11日（日）（全4回）

▼時間 9時～17時30分

▼場所 市民会館（2月24日のみ）、国設カルルス温泉サンライバスキー場

▼内容 雪上での応急手当、ロープ操作など（最終日に検定を行います）

※全日程を終了した方に受講証を交付します。また、検定の結果、成績優秀者には「赤十字雪上安全法スキーパトロール認定証」を後日交付します。

▼対象・定員 救急法救急員認定証

を持ち、全日本スキー連盟技能検定2級以上のスキー技術を有する18歳以上の方・20人（申込順）

▼受講料 1万2千円（教材費など）

▼申し込み 2月9日（金）までに日本赤十字社登別市地区事務局（社会福祉課内 ☎①911）

排水設備工事指定店の 指定取り消しについて

広報のほりべつ5月15日号でお知らせした排水設備工事指定店のうち、次の工事指定店の指定を取り消しましたのでお知らせします。

▼指定店名 住建吉田（新生町1丁目11-9）

▼問い合わせ 下水道課（☎⑨052）

3月の粗大ごみ収集

粗大ごみの収集は、地域ごとに決められた年2回の収集時期に、電話の申し込みにより行います。粗大ごみを出すときは（1回につき5品まで）、1枚160円のごみ処理券を購入の上、1品ごとにごみ処理券を張ってください。

▶申込方法 収集日初日の2週間前から収集日初日まで（土・日曜日、祝日を除く）の8時30分～17時に電話で環境資源課へお申し込みください

3月の粗大ごみの収集日・地区		
地区名	収集日	申込期間 (土・日曜日、 祝日を除く)
千歳町	3月5日（月） ～3月10日（土）	2月19日（月） ～3月5日（月）
幌別町	3月12日（月） ～3月17日（土）	2月26日（月） ～3月12日（月）
中央町	3月19日（月） ～3月24日（土）	3月5日（月） ～3月19日（月）

※このほかの地区の収集日については、『家庭ごみ収集カレンダー』に掲載しています。また、今後の『広報のほりべつ』でも紹介していきます。

申し込み 環境資源課（☎③2958）
問い合わせ

しんた21のトレーニングルームを利用しませんか

冬は、外出の機会が減り運動不足になりがちです。

総合福祉センター「しんた21」のトレーニングルームは、ダイエットや心肺持久力の向上などに最適なさまざまなトレーニング機器を備えており、天候に左右されず、寒い日でも気軽に運動できます。

はじめての方には、専門のトレーナーがアドバイスをしますので安心してご利用いただけます。

健康づくりや生活習慣病予防のため、しんた21のトレーニングルームを利用してみませんか。

▼利用時間

◎火～土曜日 9時～20時45分

◎日曜日、祝日 9時～16時45分

▼休館日 月曜日、祝日の翌日

▼利用料 1回100円（シャワー料含む）

※回数券もありません。

▼問い合わせ 保健福祉課

（しんた21内 ☎0100）

新規高卒者就職促進会の参加企業を募集します

ハローワークむろらんでは、今春卒業予定の高校生を対象とした就職促進会に参加する企業を募集しています。高校卒業予定者の多くは、地元での就職先を探していますが、ま

だたくさんの求人が足りません。

就職促進会は、参加企業の人事担当者と就職希望生徒の個人面接を行い、一人でも多くの生徒が就職の内定を受けられるよう開催しています。

新規高卒者の採用を予定されている企業の方はぜひご参加ください。

▼日時 2月20日（火） 13時30分～

▼場所 蓬岷殿（室蘭市宮の森町1丁目1-64）

▼問い合わせ ハローワークむろらん ☎086889

郷土資料館体験学習 ひな人形づくりの参加者を募集します



和紙を素材にした素朴な風合いをもつ、かわいいミニひな人形を作ってみませんか。

▼日時 2月24日（土） 10時～12時

▼場所 文化伝承館（郷土資料館横）

▼対象 市内に居住する小学生以上の方（小学1・2年生は保護者同伴）

▼定員 30人（申込順）

▼参加料 小中学生：無料、大人：100円

▼持ち物 上履き、手ふき、作品持ち帰り用の袋

▼申し込み 2月7日（水）から（10時～16時）電話で郷土資料館

☎1339

今年の7月から

水道料金を値上げします

現行の水道料金を改定する登別市水道事業条例改正案が、昨年12月に開かれた第4回定例市議会で可決され、7月から水道料金を値上げすることになりました。

今後とも、みなさんの信頼にこたえるため、経営の効率化やサービスの向上に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。



千歳配水池

値上げする理由は？

安全でおいしい水を供給するためには、浄水場や配水管などの水道施設を常に整備していかなければなりません。

この整備には、今後4年間に22億円もの多額のお金が必要となり、この費用は、みなさんが支払う水道料金や国などからの借金でまかなうこととなります。

しかし、現行の水道料金のままでは、平成12年度以降の収支に相当な額の赤字が見込まれ、みなさんに安定した水の供給を維持することが困難になるため、水道料金を値上げするものです。

なぜ値上げなの？

用途別	改定率
家事以外	15.79%
公共浴場	14.44%
公衆浴場	4.96%
消防	100.00%
全用途平均	15.45%

今回の改定では、それぞれの使用水量に応じて単価が定められていて「計量料金」が値上げされます。基本料金については、

経済情勢などを考慮し抑え置くこととしました。

なお、改定後の水道料金は、家事用の平均使用水量1立方メートルの場合、現行料金の2千円が2千500円に、200円の値上がりとなり、全用途の改定率の平均は15.58%となります。

いつから上がるの？

水道料金の改定は、今年の7月1日から適用され、幌別川から白老町寄りの地区（A地区）は8月請求分から、幌別川から室蘭市寄りの地区（B地区）は9月請求分から新料金となります。

なお、今回の改定は水道料金のみで、下水道使用料については改定されません。

今回は、料金改定の概要についてお知らせしましたが、詳しい内容については、今後、広報のほりべつなどでお知らせする予定です。

水道料金に関するお問い合わせ

水道部業務課 ☎55501

情報あら

歩くスキー教室の参加者を募集します

文化・スポーツ振興財団主催

日時 2月18日(日) 受け付け9時30分

場所 国設カルルス温泉サンライバスキー場

対象 市内に居住または通勤・通学する小学生以上の方

受講料 200円(傷害保険料を含む)

持ち物 歩くスキー用具

申込方法 2月6日(火)から13日(火)の9時から17時までに電話でお申し込みください

※受講料は2月13日(火)までに総合体育館に持参してください

申し込み 総合体育館 (☎5552)

親子料理教室に参加しませんか

文化・スポーツ振興財団主催

日時 2月25日(日) 9時~13時

場所 鶯別公民館

内容 親子で楽しく料理作りにはチャレンジします(メニュー:ひじき寿司、卵とわかめのスープ、包み焼き、アップルケーキ)

対象 市内に居住または通勤・通学する小学3年生以上の親子

定員 10組(申込順)

受講料 1千円(材料費など)
講師 千野明子さん(管理栄養士)
持ち物 エプロン、ふきん、三角巾などの頭を覆うもの

申し込み 2月6日(火)から16日(金)までの9時から17時までに(土・日曜日、祝日を除く)電話で文化・スポーツ振興財団(☎11116)

『相続登記無料相談所』を開設します

札幌司法書士会室蘭支部主催

相続登記手続などでお悩みの方は、お気軽にご相談ください。司法書士が、無料でご相談をお受けします。なお、秘密は固く守られます。

日時 2月8日(木) 10時30分~15時

場所 室蘭サティ(室蘭市東町2丁目4-32) 2階桐屋ホール

申込方法 当日、会場受付でお申し込みください

問い合わせ 札幌司法書士会室蘭支部事務局 (☎8086)

市民健康教室に参加しませんか

室蘭市医師会主催

生活習慣病予防週間に合わせ講演会を開催します

日時 2月8日(木) 18時

場所 室蘭・登別保健センター(室蘭市東町4丁目20-16)

講師 一柳伸吾さん(市立室蘭総合病院消化器内科副部長)

テーマ 「大腸がんについて」
参加料 無料
問い合わせ 室蘭市医師会 (☎4393)

嘱託職員を募集します

申し込み・問い合わせ
職員課
☎1132

▶雇用期間 平成13年4月1日~平成14年3月31日
▶試験月日 2月18日(日)(時間は後日ご連絡します)
▶試験場所 市役所第1・第3委員会室(2階)
▶試験方法 面接試験、適性試験

▶申込方法 職員課または各支所に備え付けの申込書に必要事項を記入の上、2月13日(火)までに(土・日曜日、祝日を除く)に職員課に持参してください

職種	募集人数	勤務地	主な業務内容	勤務条件			応募要件	
				1日の勤務時間	休日	給料(月額)	資格など	年齢
夜警員	1人	市役所本庁舎(中央町6丁目)	市役所本庁舎の夜警業務	①17時~9時(仮眠時間あり) ②9時~17時(2週間に1回程度)	3勤1休制	130,800円		40~61歳
トレーナー	1人	総合福祉センターしんた21(片倉町6丁目)	トレーニングルームでのトレーニング指導業務	週29時間勤務(9時~21時の間で1日5~7時間の週5日勤務)	月曜日、祝日の翌日及び土・日曜日のいずれか	130,800円	健康運動実践指導者等の資格を有する方	20~30歳
公務補	1人	老人福祉センター(富士町7丁目)	センター内外の維持・管理業務	9時~17時(木~日曜日)	月~水曜日、祝日の翌日	130,800円		40~61歳
公務補	1人	市内小・中学校(配置場所未定)	学校施設の環境整備及び修繕業務	①7時30分~13時 ②10時30分~16時 (①②一週間交代制)	土・日曜日、祝日	124,000円	簡単な修繕・工作のできる方	40~61歳
調理員兼公務補	1人	登別温泉保育所(登別温泉町92)	入所児の給食調理及び施設内外の清掃業務	①10時30分~16時25分(月~金曜日) ②9時~12時10分(土曜日)	日曜日、祝日	130,800円	通勤可能な方	30~58歳
調理員	2人	給食センター(千歳町3丁目)	給食調理、食器洗浄及び簡単な機械操作業務	①8時30分~15時30分 ②9時~16時 (①②一週間交代制)	土・日曜日、祝日	121,700円	重量物の取扱いが多いため体力のある方	30~58歳

*資格・年齢の基準日は平成13年4月1日現在です。また、すべての職種について、性別の要件はありません。

カルルス温泉 冬まつり

日時 3月4日(日) 9時～16時
場所 国設カルルス温泉サンライバスキー場



▲雪中みかん拾い

※催しによっては先着順で締め切るものがありますので、詳しくはお問い合わせください。また、都合により、時間や内容を変更することがありますので、ご了承ください。



▲チューブレース大会



▲歩くスキーの集い

▲親子ボブスレー大会

▼内容 無料スキー・スノーボード講習会、親子ボブスレー大会、チューブレース大会、オロフレ雪原宝探し、雪上もちまき、雪中みかん拾い、歩くスキーの集いなど

▼問い合わせ 登別観光協会
(☎0143-333-11)

2001年 カルルス温泉冬まつり

空から舞い降りてくる真っ白な雪。それは自然から私たちがへの贈り物。パウダースノーの上をスキーやスノーボードで滑ったり、雪原を歩いてみると、冬は自然を満喫する絶好の季節です。

寒い寒いと家の中に閉じこもってしないで、雪の中でおもいっきり遊んでみませんか。

雪まみれになつて遊んじゃおう

好き
このまちが
まちな風景
3月

と な り ま ち ・ ほ ッ ト ラ ン

白老町

冬を満喫しよう
【第24回白老どさんこ冬まつり】

わかさぎ釣り大会をはじめ、人間カーリング大会やアイスユニホック大会など冬のスポーツが目白押しのお祭りです。氷像コンクールや遊戯王争奪クイズ大会など、楽しいイベントも盛りだくさん。みなさんのご来場をお待ちしています。

▶日時 2月10日土 10時～15時
11日日 8時～15時

▶場所 ポロト湖周辺

▶問い合わせ 白老どさんこ冬まつり実行委員会 (☎白老観光協会内) ☎0144-2216

室蘭市

「雪と友だち! 冬フェスタ」で寒さを吹き飛ばそう

文字抜きバトルやボール入れ、ムカデ競走、綱引き、ソリ作り、丸太・氷切り体験などの多彩な内容で開催します。具汁を用意していますので、おにぎりなどを持って、親子でぜひご参加ください。

▶日時 2月18日(日) 10時～12時

▶場所 室蘭市民俗資料館(陣屋町)裏庭

▶入館料 300円(中学生以下と70歳以上は無料)

▶問い合わせ 室蘭市民俗資料館「とんでん館」(☎0143-4922)

伊達市

富良野塾公演「今日、悲別で」
本当の感動を味わってみませんか

倉本聰が演出する感動の富良野塾公演に、ぜひお越しください。

▶日時 2月19日(月) 18時開場

▶場所 だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール

▶入場料 前売り4,000円、当日4,500円

▶チケット取扱先 カルチャーセンター窓口、ミュージックショップ国原室蘭中央店・室蘭中島店、ギンヤレコード店ほか

▶問い合わせ 伊達メセナ協会事務局 (☎0142-21515)